

“豊かで快適な環境づくり”をテーマとした、塗料・塗装を用いた建築物・建造物等のカラープランニングオープンコンペが本年も開催されました。

(審査会：2023年11月20日 東京塗料会館にて実施)

受賞作品  
発表

新札幌駅周辺地区再開発I街区メディカルエリア

(新さっぽろ脳神経外科病院、新札幌整形外科病院、  
交雄会新さっぽろ病院、D-スクエア新さっぽろ)

(北海道 内外装 医療施設)



[新築部門]

受賞 大成建設株式会社 下手 彰

代表者

大成建設株式会社 佐々木 直大・西村 浩一・出口 亮・岩崎 篤



<講評>本件は、再開発プロジェクトにおける病院・医療複合ビルの新築設計に伴う色彩計画である。エリアを構成する建築物は高さやボリュームが異なるが、各施設をつなぐ橋円の上空通路のシンボリック機能によって、本街区にまとまりが生まれるとともに景観的に良好なシークエンスを予感させる空間となっている。この予感には各建物のベースカラーとルーバーに施されたアクセントカラー「彩帯（いろおび）」の色彩コントロールによって現実のものとなっている。

2年前の第24回グッドペインティングカラーでは当該プロジェクトの一環として実施されたG街区の色彩計画が新築優秀賞を受賞している。前作でも今回と同様、対象物件のテーマカラーとして「札幌の景観色70色」が活用されているが、両者を比較して本設計がカラーデザイン・テクニックの進化をうかがわせることも受賞の要因となっている。

<受賞者コメント>医療施設を中心に、多用途の施設が複合する少子高齢化社会ならではの新しい再開発計画。各建物は札幌市の景観色70色より選定したカラフルな縦のライン「彩帯」が四季の木立をイメージさせながら、施設の個性をもたせている。さらに共通のカラーとして「粉雪（白色）」を水平ラインとして使用し、個性と調和をバランスさせた。異なる建物の規模や階数の中で統一感のある街並みを実現できたのは、各事業者の理解と協力があってこそのもので、心から感謝申し上げたい。2023年12月には、いよいよ街区全体がオープンし、この特徴ある街がますますにぎわっていくことを心から願っている。





## 総評

グッド・ペインティング・カラーは今回で第26回を迎えることとなりました。

今回の応募作品はこれまで以上に全体の質があがり、数年前なら入賞していたような作品が今回は当たり前の水準であり、受賞レベルに至らないと感じさせるほどにレベルの向上が見られました。

その中でも、選定する色彩の微妙なニュアンスを調整して、最適解を見つけていくというこだわりの姿勢を持った作品が受賞しています。新築のみならず全部門でその傾向が見られましたが、特に戸建改修部門でこれまでとは一線を画し、今後の応募に期待が膨らむと思います。

また、もう一つの印象として、従来は設計者の頑張りが前面に出て

いましたが、今回は設計者だけでなく、事業者の理解がなければ成立しない案件が多かったように思います。色の持つ力が設計者からの一方通行ではなく、双方向での理解が深まってきたという印象を受け、関係者全員で色の可能性をつかみ始めてきたように思います。グッド・ペインティング・カラーのステージが一步あがったと感じた審査会でした。

さらに今回の受賞作品では、応募書類に目を通した後、現地を歩いてみたくなる作品がみられ、カラーハーモニーのみならず様々な感覚を呼び起こす環境計画であることを感じさせました。環境と人、人と人のコミュニケーションが色彩計画を通して活発になる。このような視点も今後の課題として取り上げていきたいと思います。

審査員

委員長 赤木 重文 一般財団法人 日本色彩研究所 理事長

委員 田嶋 豊 株式会社 ランドスケープデザイン 設計部 部長

委員 永井 香織 日本大学 生産工学部 建築工学科 教授 工学博士

委員 桜井 輝子 東京カラス 株式会社 代表取締役

## 優秀賞

[新築部門]

## 医療法人再生会くまもと心療病院

(熊本県 外装 医療施設)

受賞  
代表者

## 大成建設株式会社 三島 秋津

大成建設株式会社 下手 彰・綾部 圭介・  
杉藤 明日美

<講評>精神科病院に対して持たれる閉鎖的な印象を払拭し、利用者にとっては明るく開放的で落ち着いた病院であり、近隣住民にとっては地域の広場としての活用などとともに病院の存在が心理的な負担にならないように景観的に配慮すること、これが本件のコンセプトである。

グラフィカルなフレームによるファサードデザインが、センシティブな性格を持つ対象の用途イメージを払拭し、近隣住民に対して「病院らしくない表情」が功を奏している。地域に開く病院としてあり続けたいという設計指針に色彩計画が大きく貢献し、外構の緑が成長することにより、一層バランスのよい景観になりそうである。

<受賞者コメント>本病院は、精神科病院に対して持たれる閉鎖的な印象を払拭し、病院内外の人たちにポジティブな印象を与える「地域に開かれた病院」を目指しました。近隣住民への物理的・心理的負担に配慮をしつつ、精神科病院ではあまり見られない大きな開口部を設け、明るい共用部と落ち着いた色のある内外装としています。これらを機能的なファサードシステムで一つのグラフィカルなデザインとしてまとめ、敷地内の豊かな緑地と相まって、更なる安心感と清潔感をもたらず病院となっています。



## 特別賞

[新築部門]

## LF奈良

(奈良県 内外装 倉庫)

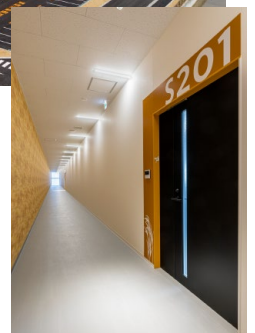
受賞  
代表者

## 株式会社大林組 大塚 洋人

株式会社大林組 児玉 克史・洲脇 規男

<講評>近年、しばしば目にする機会が多くなった大型物流施設については、景観インパクトが大きい一方で、ローコストが前提となっており、周辺との調和に悩む事例が多くある。色彩計画による課題解決はポテンシャルが高いと期待しているが好事例は少ない。そのような現状において、本件は周辺環境の特徴を俯瞰的レベルで抽出・デザイン化し、周りの風景との調和を試みた意欲的な提案である。さらに内装には地域の自然や歴史的特性から抽出したテーマカラーを活用して、機能的な空間にまとめている。特に無彩色グラデーションの明度域の選定が適切で、最も暗いグレイと最も明るいグレイの明度差を押さえ、その間に中間のグレイを挿入している。その結果、周辺景観への親和性が高まっている。さらに内装共用部の鮮やかな色彩の使い分けも理にかなった設計となっている。

<受賞者コメント>輸送の利便性や規模の関係から、湾岸や内陸の工業地域に建設されることが多かった物流施設は、現代の社会インフラとして急速に普及が進み、より身近な立地にも建設されつつある。本計画地は戸建て住宅街に隣接しており、大規模でありながら周辺環境と調和する施設の在り方が求められた。周辺への圧迫感の低減に配慮しつつ奈良県最大規模となる施設にふさわしい品格を備え、住宅地の中で成立する物流施設を目指した。外装は、周辺環境に馴染むように段階的に変化する色彩を選定し、壁面に設置される樋等にも目立ちすぎないように配慮を行った。内装は、階毎に地域の特徴を引用したテーマカラーを用いたインテリアとサインを両立する計画とした。







最優秀賞

改修部門

学校法人和洋学園講堂

(千葉県 外装 学校施設)

受賞代表者

日本ペイント株式会社 奥 香織

株式会社和洋サービス 岩崎 友勇

<講評>対象の物件は、中高一貫校の講堂で、生徒や保護者を含めた学園関係者に長く愛された施設であり、建て替えではなく改修によってその思いを継承していくという方針が色彩設計コンセプトの軸となっている。対象の講堂の現状は部材の老朽化などにより、これまで愛着を持たれてきた雰囲気が維持できなくなっていることや、ひとつの建築美に傾倒する創建当時の景観評価の傾向が時代にそぐわなくなってきたことにより、周辺施設に対して不調和感を覚える構造物になっていった。このような課題を受けて、きわめて明快で具体的な方向性を持った改修案が示されている。

近年の教育施設の改修は、スタイリッシュやカラフルな色使いの事例が多くみられるが、本件はもともとの建物の色を活かし、色みや塗分けを工夫してリフレッシュした良好な事例である。周囲の既存建築物のタイルや煉瓦などとの調和を意識したきめの細かい色彩設計である。改修前後を見比べると、建物形状を活かした色彩選定の手順がアップデートされていることがよくわかる。



<受賞者コメント>学校法人和洋学園講堂は、式典やイベントで生徒や保護者が集う、趣のある施設です。古き良き時代を彷彿とさせる建築形状を生かし、大きくイメージチェンジを図りました。時代の先をゆく新しい女子教育を実践しながら、日本の美意識を守り続けてきた和洋学園らしさを、優しい彩でイメージアップ。控えめなコントラストで建築美をキープし、敷地内の校舎との統一感を高めました。今後も関係者の方々に、永く愛されることを望んでおります。



改修前

改修後



優秀賞

改修部門

大島四丁目団地2,6,7号棟

(東京都 内外装 集合住宅)

受賞代表者

独立行政法人 都市再生機構 鈴木 陽子

株式会社日東設計事務所 岡本 司

<講評>本件は、高層7棟の団地の改修による色彩計画である。建物の構造分類によって、3種類のパリエーション展開を持つカラースキームを設定し、飽きのこない表情を創出するとともに、サインとしての機能も盛り込んだ設計となっている。このカラースキームによって団地を構成する各棟の位置付けが明確になるとともに、穏やかな色彩選定により、緑の豊富な周辺環境と静かに対話しているような環境に仕上がっている。これらの表情を決定づけた要因として、詳細にデザイン展開の拠り所を見ても、壁面のデザインモチーフとしてテキスタイルを取り上げたところであろう。糸を編み込んだ布地が観察距離によって表情を変えるように、低彩度の数種類の糸を編み込むような繊細さが建物立面からも感じられ、周辺環境ともバランスのよい景観となっている。低層エントランス部の扱いも品よく、設計者の技量の高さを感じさせる。

<受賞者コメント>URでは「周辺環境、景観、景色/建物と屋外環境との調和/居住者にとっての分かりやすさ、快適さ、親しみやすさ/大~小さいパーツまでシームレスに考え課題解決を図る、安心安全等」を意識しながら外壁修繕に取り組んでいます。大島4丁目は8・9・14階の高層7棟からなる大団地です。今回はそのボリューム感を抑えつつ、建物形状のポテンシャルを引き出すことを目指し、形状を丁寧に分析し、奥行きや柔らかさを表現する「布」のような色彩計画としました。また、サイン計画も部分ごとにデザインや見やすさ等を確認しながら計画し、既存を活かしながら刷新しながら、親しみやすく、快適な空間作りの工夫を行っています。



改修後



改修前



特別賞

改修部門

三鷹台団地

(東京都 外装 集合住宅)



改修後



改修前

受賞代表者

独立行政法人 都市再生機構 児平 亜由子

有限会社クリマ 加藤 幸枝・澤 千晶

株式会社集研設計 佐藤 文昭

<講評>本件の特徴は、環境設計に対してデザイン性の高い取り組みが建設当初から行われ、それにふさわしい配置計画による建物が対象となることであろう。その代表といえる特徴が南北に走るプロムナードであり、利用者に対して快適な歩行者空間を提供している。さらに各棟のメインエントランスはプロムナードに開かれ、各棟特有のエントランスデザインが歩行者に対する良好なシークエンス景観を演出していた。しかしながら改修前には変退色等により色彩計画のテーマ性が感じられないほどに劣化していったようである。

本件の改修では、カラースキームとして基調色3色、強調色として4色相と3トーンの系列で計12色を選定している。基調色は低彩度のニュートラル系から明度コントラストの高い3色が選定され、経年変化に対応していることをうかがわせる。さらに強調色による、4種類の色相をもちいた住棟個性の演出があり、3トーンを用いた変化の演出が見られる。いずれも緑豊かなプロムナードを視点場としたシークエンス景観が楽しめる設計である。

<受賞者コメント>三鷹台団地は、三鷹市内において緑地や農地などが多く残された緑環境に恵まれた住宅街に立地しており、建設当初から周辺環境によく配慮された外観となっていました。

そこで既存の良い点は踏襲しつつより快適な居住空間となるように「ニュートラル×アクセントカラー」をテーマとし、周辺環境との調和や街区全体の連続性や一体感を演出するために、基調色は色味を最小限に配したニュートラルな外形としました。またアクセント効果として各住棟の形態・意匠の特性に合わせたアクセントカラーを展開することで、視認性を高め歩行者空間に豊かな変化を意識した色彩設計としました。





優秀賞

[内装部門]

立命館アジア太平洋大学 Green Commons (大分県 内装 学校施設)

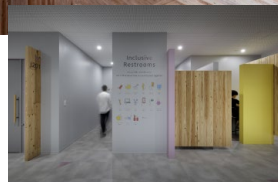
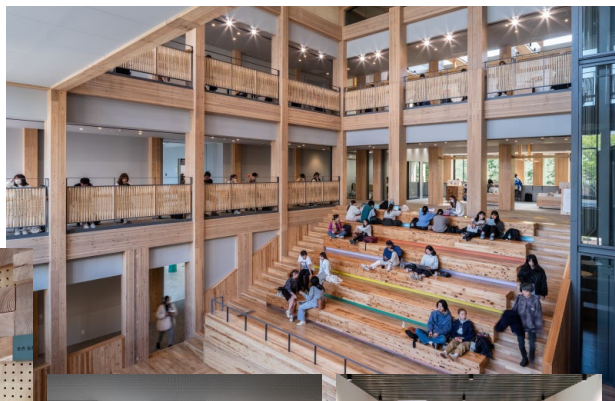
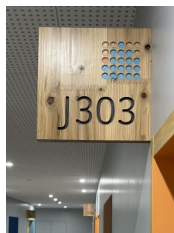
受賞  
代表者

株式会社竹中工務店  
金井 里佳

株式会社竹中工務店 永井 務・野村 直毅・地田 聡

<講評>本件は、学生が国籍を超えて集まる国際大学の教室棟インテリア色彩計画である。多様な民族や国籍を無数の色彩になぞらえ、色彩の系統性に着目してシステムティックにカラースキームを構築して内装色彩計画を立案している。多様な民族は多種の色を想定するが、色は隣り合った色との相互作用によって様々な見えを実現する。特に色どうしが刺激しあってお互いが引き立てあう色の現象として補色対比があげられるが、本件はこの補色対比を手掛かりにして、学びの多様性をインテリア色彩計画として表現している。世界の人々が培ってきた固有の文化や環境の多様性、SDGs、インクルーシブ等のコンセプトを具体化した現在社会らしい内装環境提案であり、色のもつ可能性を感じさせる作品である。

<受賞者コメント>106か国から3000名の留学生が集まる国際色豊かな大学において、互いの個性を引き立てあい、ちがいがから新たな気づきを得るインクルーシブな学びの場のデザインにチャレンジしました。色相環における補色の組み合わせにより、床パターン、サイン、アイコン、家具色、掲示板色、窓枠色まで広がる空間全体をデザインすることで、新棟全体の彼らの学びを彩り、新たな刺激を生むことができたと感じています。今回の計画が今後も変化し続ける彼らの学びに寄り添うデザインとなることを願います。



優秀賞

[戸建改修部門] O様邸

(鹿児島県 外装 個人住宅)



改修前

改修後

受賞  
代表者

有限会社松元建築  
松元 貴司

<講評>戸建改修では施主の希望を聞いて色を決定することが多い。希望色を聞き取る段階から、施工までいくつかのステップを踏むが、コミュニケーションの行き違いから最後に施主からのクレームが出てくることも少なくない。本件はカラーシミュレーションを作成して希望する塗り替えイメージを確認した後、塗り替え対象の壁を使って数パターンの試塗りをおこない、施主の確認を取って施工を行っている。施主に対する丁寧な対応によって、完成度の高い改修が実現した。

<受賞者コメント>この度は作品をご評価いただきありがとうございます。弊社ではお客様のご希望を第一にしておき、お客様が納得のいくまでカラーシミュレーションや見本作りを丁寧に行っております。今回も綿密に打ち合わせを行ったかあり、O様にはとても喜んでいただけました。私も大変やりがいを感じております。今後も新しい材料や技術を積極的に取り入れながら、弊社の技術に磨きをかけ、お客様にご満足いただくためより意匠性の高い施工を目指していきたいと思えます。



優秀賞

[戸建改修部門] H様邸

(滋賀県 外装 個人住宅)

受賞  
代表者

株式会社KEIKAN  
岩城 健太

<講評>分節された上下のボリューム感に対する、色の明るさ感が適切である。エントランス周りも建物とのバランスが良く、外構の改修も含めて落ち着いた重厚な表情を持つ住宅に変わった。配色としての質も高く品格を感じさせる改修計画となっている。植栽による緑が追加されれば、さらに上質な印象となるであろう。

<受賞者コメント>“お客様の理想を叶える”がモットーの弊社は、伺ったご要望とご予算を元にプランニング。H様邸の“トータルバランスに優れたお家”も、幾度と打ち合わせを重ねて仕上げました。外壁は1階と2階でカラーを変えつつ濃色で統一して格好良く。それを軒裏の茶色がより引き立たせます。更に弊社オリジナルの最高級無機+フッ素樹脂外壁塗料の“ツヤ消し塗料”が落ち着いた雰囲気を出します。外構は、生コンクリートの表面に“さざ波模様”をつけ、機能性と見た目の高級感を両立。またお家まわりにぐるっと敷いた砂利が、土間・外壁と相まって、温かみを醸します。そんな、リフォーム全般に詳しい弊社ならではのデザインを、お客様だけでなく審査者様にもご評価いただけたこと、大変光栄に思います。



改修前



改修後

後援 経済産業省 国土交通省

報道関係協賛 (株)日刊工業新聞社 (株)化学工業日報社 (株)日刊建設工業新聞社 (株)日刊建設通信新聞社

協賛団体 東京商工会議所 (一社)全国建設業協会 (一社)日本建材・住宅設備産業協会 (公社)日本建築士会連合会 (一社)日本建築学会 日本建築士上学会 (一社)日本色彩学会 (一財)日本色彩研究所 (一社)色材協会

(順不同)

(一社):一般社団法人、(公社):公益社団法人、(一財):一般財団法人

主催団体

一般社団法人日本塗料工業会

▶ <https://www.toryo.or.jp/>

日本塗料商業組合

▶ <http://www.nittosho.or.jp/>

一般社団法人日本塗装工業会

▶ <http://www.nittoso.or.jp/>



第26回受賞作品

第1回~第25回の受賞作品(最優秀賞、優秀賞、特別賞)は日本塗料工業会のホームページにてご覧下さい。▶ <https://www.toryo.or.jp/jp/event/GPC/index.html>